

2022 年 9 月 3 日作成

Ver.1.0

転移性肺腫瘍に対する治療戦略と予後についての検討**1、研究の目的と意義**

日本胸部外科学会年次報告によると、2017 年に転移性肺腫瘍に対して手術を施行されたのは 8950 件で、呼吸器外科手術の 10.5%を占めています。これは原発性肺がん、気胸に次いで3番目に多く、年々増加傾向にあります。長崎大学病院腫瘍外科でもこれまで転移性肺腫瘍に対して手術を施行してきましたが、症例によって治療後の経過は様々です。本研究は転移性肺腫瘍と診断され、手術を実施された症例に対する治療の成績を検討します。

2、対象となる患者さん

2001 年 1 月 1 日～2022 年 7 月 31 日の間に長崎大学病院呼吸器外科で手術を行い転移性肺腫瘍と診断された患者さんのうち、年齢が 18 歳以上の患者さんを対象とします。

3、研究の方法

下記のカルテ情報を用いて、治療法や患者さんの背景因子と治療経過についてデータ解析を行い関連性等を調べます。

4、研究に用いる試料・情報

診断名、年齢、性別、身体所見、検査結果（血液検査、画像検査、心電図検査、呼吸機能検査）、画像診断結果、病理学的所見

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

5、研究期間

研究機関長の許可日～2027 年 12 月 31 日

6、外部への試料・情報の提供

該当なし

7、研究実施体制

この研究は長崎大学病院のみで実施する研究です。

《研究責任者》

長崎大学病院 腫瘍外科 永安 武

詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

8.お問い合わせ先

長崎大学病院 腫瘍外科 朝重耕一

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7304 FAX 095（819）7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療安全課 095（819）7616

受付時間：月～金 9：00～17：00（祝・祭日を除く）